

伊賀市社協 だより

あいらしおあう

平成31年4月15日発行
No.159
4月号



わたしたちが、安心して暮らせる地域づくりを応援します！【2019年度 地域福祉コーディネーター】

【後列】 山本哲士（上野）・中西正敏（上野）・吉田文江（上野）・野田守（いがまち）・福田有美（阿山）・恒岡三恵（青山）
【前列】 末廣紀子（大山田）・猪岡恵理美（島ヶ原・上野）・生間慎二郎（中部圏域課長）・奥田詩織（上野）・中森研（東部圏域課長）・今中美紀（阿山）・一見俊介（南部圏域課長）
※（ ）は配属地域センターおよび役職等 ※課長は統括地域福祉コーディネーターを兼務

地域のステキな 支えあい活動

No.12 (島ヶ原清流利活用プロジェクト)

◆地域の福祉拠点「清流」と活用の検討



1995年、旧島ヶ原村に地域福祉の拠点として老人福祉センターが誕生し、「清流」の愛称で地域住民に親しまれました。その後、市公共施設最適化計画の方向性により、施設の今後について検討する必要が生じ、社協とまちづくり協議会による意見交換会を行いました。そこで、介護だけでなく地域福祉全般の拠点としての「清流」の活用について、その必要性が再認識されました。

2016年には、市主催の「島ヶ原地域の福祉を考える懇談会」が発足し、6回の懇談を経て、1階は社会福祉協議会が引き続きデイサービスセンターを運営することとなりました。2階の活用については、2017年度に島ヶ原地域生活環境改善会議「清流利活用プロジェクト」をたちあげ、地域住民10名と社協職員2名の12名が、11回の会議を重ね、地域住民に向けたアンケートも実施し、新たな活用方法を検討しました。

◆人が集まる拠点活動のスタート！

プロジェクトの検討を経て、生活環境改善会議で具現化に向けた協議を行い、拠点活動がスタートしました。ロビーでは、セルフサービスのワンコインカフェを開設し、まちづくり協議会の事務担当者が運営を担っています。また、プロジェクトメンバーの女性3名が中心となり、地域住民の集いの場として「サロン清流」を月2回運営しています。



カフェスペース

島ヶ原地域の地域想いびと
担当地域福祉コーディネーター 猪岡 恵理美

社協職員であり、さらには地域住民でもある猪岡です。平成29年度から、地域福祉コーディネーターとして島ヶ原担当になりました。地域福祉の拠点の存続に向けて、清流プロジェクト会議にも当初から参加させて頂いていました。意見や考え方は違いますが、地域全体で課題解決に取り組んでいる姿、全員が「清流」を残したいという同じ想いでした。これからも、地域全体で、新たな取り組みを皆さんと一緒に考えていければと考えています。



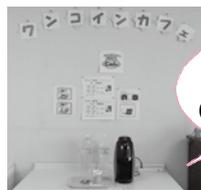
島ヶ原地域ってどんなところ？

伊賀市の西に位置し、滋賀県、京都府、奈良県の3県に隣接した山間地域です。昔ながらの地域の関係、向こう三軒両隣といったおたがいさまの関係があり、市内でもいち早く福祉協力員制度ができました。
【人口2,194人/世帯数1,176世帯/高齢化率45.3% (H30.9末)】



島ヶ原福祉センター「清流」

島ヶ原福祉センター「清流」2階



セルフサービスのワンコインカフェ (常設)

コーヒー
1杯100円
(お菓子付き♡)

趣味活動や、会議など



ギャラリー清流 (島ヶ原の風景等の写真・絵画の展示)



サロン清流 (月2回)



研修や会議など

食事サービスや男の料理教室、食育講座など

◆拠点活用のこれからの課題

今後は、ギャラリー清流を使った発表の場としての個展や、ワンコインカフェコーナーを使ったミニコンサート、趣味の講座、サロン清流の毎週開催など、さまざまな催しの企画も検討しています。

拠点活用に向けての課題として、

- ★ワンコインカフェコーナーの、新たな取組や集客方法
- ★「清流」までの移動手段の確保
- ★サロン清流の担い手となるスタッフの確保
- ★島ヶ原地域だけでなく、誰もが利用できる拠点に
- ★土日祝日や、夜間の利用 (管理体制の問題)

などが挙げられ、引き続き検討を重ねながら取組んでいく予定です。

「清流」の利活用については、解決していかなければならない課題があります。地域住民誰もが集える場所となるよう、「島ヶ原地域生活環境改善会議」を中心に、課題解決や新たな取り組みに向けた検討も進めていきます。



島ヶ原清流利活用プロジェクトリーダー 平田 久二さん

身近な地域でのたすけあい活動で、生活のしづらさを支える

～「住民参加型生活支援サービス実施団体交流会」を開催しました～

□主催／伊賀市地域福祉活動計画 住民参加型地域生活支援サービス推進部会

3月5日(火) 上野ふれあいプラザにて「住民参加型生活支援サービス実施団体交流会」を開催し、市内から17団体、25名の参加がありました。

テーマは、「どうやってあつめるの? お助け仲間」で、「朝日ヶ丘町 暮らしのお手伝いの会」と、「NPO 法人 ささゆり」の活動紹介のあと、グループに分かれて、自己紹介やそれぞれの団体の活動紹介、活動の中での課題などを話し合いました。

自分たちの住む地域を安心して暮らせるように取り組まれている参加者の皆さんが、市内の他地域の実践や手法を共有することで、参考になったり、自分たちの地域のよさに気づくなどの場面も多々ありました。

地域福祉活動計画の推進においては、地域での支え合い活動の組織化を支援しています。このような交流の場が、地域の支え合い活動の新しい展開や、課題解決の糸口になると幸いです。



朝日ヶ丘町 暮らしのお手伝いの会

H27年度より、地域在住の高齢者や要支援者・ひとり親家庭等が安心して暮らせるよう、ゴミ出しや草刈り作業等、依頼者のニーズに応じた暮らしのお手伝いを実施している。



NPO 法人 ささゆり (諏訪地区)

交通アクセスや地理的条件等から移動困難となる方に対し、H23年にNPO法人を立ちあげ、H24年より福祉有償運送を実施。さまざまな生活課題への対応も検討している。

住民参加型生活支援サービス実施団体とは?

現在の制度では解決できない、生活上のちょっとした困りごとの支援を地域で実施している団体(内容は様々で、電球の付け替えや交通不便地域の車での送迎や配食サービスなど)。伊賀市内では約26団体が活動しています。

透析が必要になってきます。透析は、体内から血液を取り出し人工的なフィルターを通して水分や老廃物を取り除き、きれいになった血液を体内に戻す治療です。2017年末の慢性透析療法を受けている患者総数は334,505人で、三重県では4,040人の方が透析を受けられています。2017年は人口100万人あたり2,640人で、国民378.8人に1人が透析患者さんとなっております。65歳以上の透析患者数が年々増加傾向にあります。当病院では透析を受けられている患者数は42人います。透析患者さんはシャントと呼ばれる透析をするための血管に針を刺し、1回3時間から5時間の透析療法を週3回行っています。透析中はテレビを見たり、本を読んだりと自由な時間を過ごしていただいています。

腎臓は、血液から水分や老廃物などをオシッコとして出すためのフィルターの役割をしています。このフィルターがうまく働かなくなると水分や老廃物などの不要なものが体に溜まってしまいます。そのような状態になると、透析が必要になってきます。

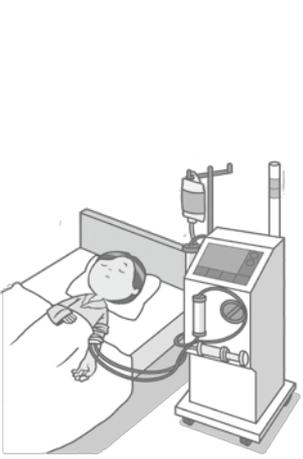
腎臓は、血液から水分や老廃物などをオシッコとして出すためのフィルターの役割をしています。このフィルターがうまく働かなくなると水分や老廃物などの不要なものが体に溜まってしまいます。そのような状態になると、透析が必要になってきます。



『腎臓が悪くなるとうなるの?透析とは?』

伊賀市立上野総合市民病院
臨床工学技士 透析技術認定士 中村 泰大

伊賀市立上野総合市民病院
TEL 0595(24)1111
FAX 0595(24)2268



透析は、体内から血液を取り出し人工的なフィルターを通して水分や老廃物を取り除き、きれいになった血液を体内に戻す治療です。2017年末の慢性透析療法を受けている患者総数は334,505人で、三重県では4,040人の方が透析を受けられています。2017年は人口100万人あたり2,640人で、国民378.8人に1人が透析患者さんとなっております。65歳以上の透析患者数が年々増加傾向にあります。当病院では透析を受けられている患者数は42人います。透析患者さんはシャントと呼ばれる透析をするための血管に針を刺し、1回3時間から5時間の透析療法を週3回行っています。透析中はテレビを見たり、本を読んだりと自由な時間を過ごしていただいています。

透析は、体内から血液を取り出し人工的なフィルターを通して水分や老廃物を取り除き、きれいになった血液を体内に戻す治療です。2017年末の慢性透析療法を受けている患者総数は334,505人で、三重県では4,040人の方が透析を受けられています。2017年は人口100万人あたり2,640人で、国民378.8人に1人が透析患者さんとなっております。65歳以上の透析患者数が年々増加傾向にあります。当病院では透析を受けられている患者数は42人います。透析患者さんはシャントと呼ばれる透析をするための血管に針を刺し、1回3時間から5時間の透析療法を週3回行っています。透析中はテレビを見たり、本を読んだりと自由な時間を過ごしていただいています。



伊賀市社会福祉協議会 事業計画

「人材」「拠点」「財源」による組織の基盤強化

基本方針（抜粋）

30年にわたる平成時代の福祉政策は、社会福祉関係8法改正に始まり、公的介護保険導入を経て、「我が事、丸ごと」地域共生社会の実現を提言して、新しい時代のステージに引き継がれようとしています。本年度はまさに地域福祉における新しいステージの幕開けとなる年となります。

伊賀市社会福祉協議会は、第2次基盤強化計画に基づき「人材」「拠点」「財源」の3つの共通テーマを設定し、法人運営部門、地域福祉部門、福祉サービス部門が相互に連携しながら取り組みます。第1の「人材」では、キャリアパス制度の導入により、福祉サービスの質の向上と職員のやりがいを高めるための人事考課と連動した処遇改善に努めます。第2の「拠点」では、2020年度に旧消防庁舎改修による「総合福祉会館（仮称）」への移転を進めるとともに、公共施設最適化計画に基づき、地域センター機能の安定的な継続を図り、地域において地域生活課題に応じた生活支援の拠点づくりを支援します。また、通所介護事業の維持継続のため、集約事業所の安定運営や地域移行を進めます。第3の「財源」では、会員制度の改正により、会員の募集や会費の使い道について住民の皆様への案内や報告を充実していきます。また、会費や共同

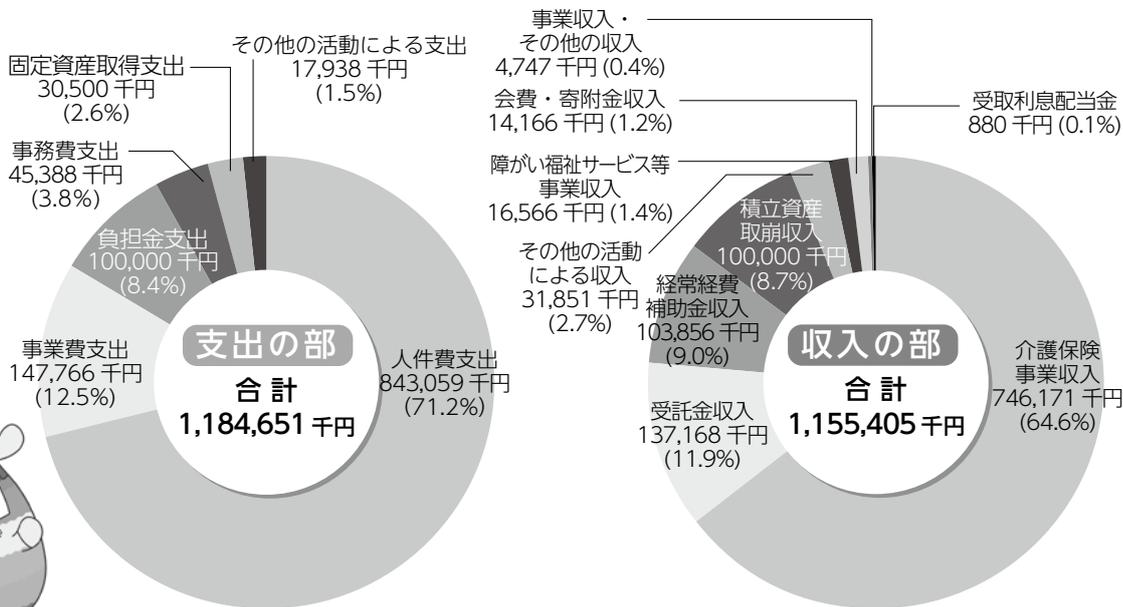
募金に加えて、ファンドレイジング手法による新たな寄付のしくみを導入することによって、制度の狭間で取り組めなかった事業や、補助金や委託金だけでは十分な対応ができない事業に充当できるようにしていきます。

地域福祉の推進にあたっては、第3次伊賀市地域福祉計画の推進と、第4次伊賀市地域福祉計画の策定に向けた準備を進め、（仮称）地域福祉ネットワーク会議連絡会の設置により、地域福祉コーディネーターによる住民自治協議会単位の地域包括ケアシステムの確立を加速します。

権利擁護支援にあたっては、日常生活自立支援事業における利用料改定への対応を図り、安定的事業実施に向けて専門員の確保と持続可能な体制整備に努め、成年後見制度の利用促進に向けた体制整備を進めます。就労支援にあたっては、生活困窮者自立支援事業において新たにひきこもりサポート事業（仮称）を受託し、昨年度試行的に取り組んだ「nest」事業を本格化します。

福祉サービス事業にあたっては、介護人材の確保が困難な状況の中、キャリアパス制度の導入により介護職員の処遇改善を図るとともに、各種介護サービスの質を落とすことなく安定的に介護サービスを提供し続けていくよう、介護サービスの高度化と効率化に取り組みます。

2019年度 伊賀市社会福祉協議会 予算



伊賀市社協 人事異動

平成31年4月1日付（課長級以上）

地域福祉部 東部圏域課長 統括地域福祉コーディネーター（主幹） 中森 研
 法人運営部 経理課長兼企画課長（主幹） 福永悦子



重点事業 (抜粋)

地域福祉部

地域福祉部全体の取り組みとして、地域で安心して暮らし続けるための支援策の検討を引き続き進めます。「これからも伊賀市で住み続けたい」「人生の最後を伊賀市で迎えたい」と願う住民も少なくないことから、社会福祉協議会においてこれまで蓄積してきた知見や事業を元に、多くの機関や住民参加による、主在宅生活での安心を支えるための取り組み(制度だけでは解決できない見守りや居住支援、保証機能、死後の準備や対応など)について、検討を進めていきます。

- ① 第3次伊賀市地域福祉計画推進のための地域支援体制の充実
- ② 権利擁護支援体制の確立
- ③ くらしの支援体制の確立

福祉サービス事業部

福祉サービス事業部は各部との連携を強化しながら、事業所の安定運営と質の向上に努め、職員のやりがいを高められる職場環境を目指します。

職員の離職が重なり、苦しい事業所の人員体制ではありますが、工夫を凝らし、安定的にサービスを提供し続けて2025年を迎えられるよう第2次基盤計画に沿って進めます。集約を行った施設においては集約の効果を活かして利用者に満足いただけるサービス提供に努めます。

日本全国各地で様々な自然災害が起こっています。災害時に即した避難訓練の定期的実施や、地域福祉と連動した災害時要援護者への支援に活かすことが出来るように日頃から取り組みます。

- ① 地域福祉コーディネーターと協働した支援の提供
- ② 集約後の効果を最大限に活かして利用者への満足度を高める質の向上
- ③ 災害に向けた取り組みの強化と訓練の実施

法人運営部

第2次基盤強化計画に基づき、「人材」に関して、就業規則の改正によるキャリアパス制度を本格実施し、人事考課制度の整備を図り、人材確保と処遇改善に取り組みます。

「拠点」に関しては、総合福祉会館(仮称)への移転準備を進め、地域センター機能の持続可能な貸借契約を図るとともに、デイサービスセンターうえのやすらぎにおいては本部移転後に新たに地域の活動拠点となるような取り組みを模索し、地域のニーズに応じて介護保険以外のサービス提供も視野に入れて検討します。

「財源」に関しては、会員制度の住民への周知を徹底し、ファンドレイジング手法による新たな寄付のしくみのマネジメント機能を担います。

- ① ファンドレイジング手法の導入による企画体制の強化
- ② 人材、拠点、財源のトータルマネジメントによる法人運営体制の強化
- ③ 経理システムの効率化による経理体制強化



用語解説

- ファンドレイジング
- 地域福祉ネットワーク会議
- 地域福祉コーディネーター

民間非営利団体が、活動のための資金を個人、法人、政府などから集める行為の総称。寄付に加え、会費、助成金、補助金などの「支援的資金」集めも含む。

地域の生活課題やニーズを把握・共有し、課題解決に向け、住民自治協議会単位で検討する場。現在、36地域でアンケート調査や情報共有、見守り・助け合い活動など、さまざまな取り組みが行われている。

誰もが地域で安心して暮らし続けられるよう、地域に向いて地域支援を専門に行う社協職員。地域福祉や見守りネットワーク・居場所・地域学習の場づくりなど、さまざまな活動支援を行っている。

お知らせ

平成31年度より、社協会費の全市統一化を図ります。

伊賀市社協は、平成16年の市町村合併に伴い、誕生して10年以上が経過しましたが、社協会費の取り扱いについて、これまで会員募集の区分や使途などが、地域センターによって異なっておりまして、つきましては、平成31年度より、会員規程および会費運用規程の改訂による会費制度の全市統一化をはかり、より一層地域福祉を推進してまいりますので、引き続き市民のみなさまのご協力・ご参加について宜しくお願い申し上げます。

「誰もが安心して心豊かに暮らせる地域づくり」と、「地域の課題解決に向けた、市民総参加の地域福祉活動」をすすめるために、社協会費へのご理解・ご協力をお願いします。

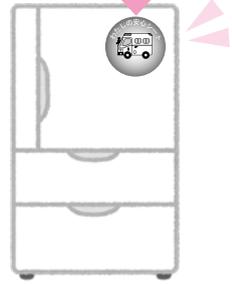


伊賀市社会福祉協議会 会長 福壽 勇

冷蔵庫に 入っていますか？ 「わたしの 安心シート」



★おねがい★「安心シート」を冷蔵庫に入れたら、扉部分にステッカーを貼ってください。



「わたしの安心シート」は、あなたの医療情報をまとめ、容器に入れて冷蔵庫に保管し、万一の救急時に備えるものです。

伊賀市社協では、冷蔵庫に保管し、もしもの時にあなたやご家族の命をすばやく救うための情報ツール『わたしの安心シート』の利用をお勧めしています。

伊賀市消防本部でも、救急出動の際には『安心シート』の有無を必ず確認していただけるほど、広く浸透してきました。しかし、せっかく冷蔵庫の中からシートを取り出しても、中身が記入されておらず白紙のままであったり、連絡のつく人の携帯電話番号が現在使われていなかったりといった、残念な事案もあるようです。

春は進学や就職、転勤などで生活環境が大きく変わる季節です。もう一度、あなたの『安心シート』を点検してみてくださいいかがでしょうか・・・

※安心シートは、伊賀市社協ホームページからダウンロードできます。▶<http://www.hanzou.or.jp/about/download/>



★安心シートは、社協の各窓口でお渡しできます。

★シートには、緊急時に連絡がつく人（できれば2人以上）の電話番号と、お薬情報、現在かかりつけの病院名等をご記入ください。

★『安心シート』を冷蔵庫に入れた後、忘れずに扉にステッカーを貼り、「万一の際に開けて確認してほしい」という、意思表示をお願いします。

「わたしの安心シート」は、社協会費が一部活用されています。

三重の赤い羽根募金 百貨店プロジェクト

■平成30年度三重の赤い羽根募金百貨店プロジェクト贈呈式

三重の赤い羽根募金百貨店プロジェクトでは、企業と地域住民と共同募金のしくみの関係性を構築し、企業の自社の商品やサービスを通して、地域貢献につながる新たな仕組みづくりに取り組んでいます。

伊賀市では、第1号店として「桔梗屋織居」が、「おかゆ大福」を寄付付き商品として選定し応援していただいております。

去る3月13日、三重県社会福祉会館にて寄附金贈呈式が行われ、平成30年度分のご寄付をいただきました。

■やぶつちや温泉が伊賀市2号店に！

三重の赤い羽根募金百貨店プロジェクトに、伊賀市で2号店として「やぶつちや温泉」にご加盟いただきました。やぶつちや温泉で販売しているオリジナルエコバックの売り上げの一部をご寄付いただきます。

三重の赤い羽根募金百貨店プロジェクトにご賛同いただける企業を募集しています。



若者の職業的自立のための総合相談窓口

いが若者サポートステーション

無料



～15～39歳までの「働きたい悩みを抱えている人」を支援しています～

★就職相談と各種講座をしています(要予約)★

☆「コミュニケーション講座」開催

自分の気持ちや考えをわかりやすく、伝える方法などについて学びます。毎月1回(第2火曜日)

日時:5月14日(火) 10:00～11:30

場所:サポステ事務所 ☆事前にご連絡をお願いします。※4月は終了しました。

■住所/伊賀市上野丸之内57-4 センタービル1階

■☎&Fax/0595-22-0039 ■メール/iga-saposute@npo-en.or.jp

■開所日/月～金曜日 9:00～17:00 (土・日・祝 年末年始は休み)

ハローワーク伊賀 出張相談日/4月16日(火)・5月21日(火) 13:00～16:00

無料「パソコン講座」開催

【PC入門 ワード・エクセル・パワーポイント】

●日程/5月10日(金)/13日(月)

/15日(水)/17日(金)/20日(月)

●時間/10:00～15:15

仕事に
いける!!

今日からできる簡単手話講座

はじめまして

「はじめ」と「会う」の手話を組み合わせることで表現します。



- ①「はじめ」片手の5指を揃えて、体の前ベルトの辺りから上へ上げながら、人さし指を残して他の4指は折ります。
- ②「会う」両手人さし指を、左右から真ん中で合わせます。

伊賀市健康福祉部障がい福祉課 ☎22-9657

市民ふくし
大学講座

◇この講習会は、市民ふくし大学講座 専門講座として認定されます。



基礎講座 + 専門講座 ▶

シニアのための… “いきいき教室”

いつまでも元気で暮らしたい・・・誰もが望むことです。
2025年には65歳以上の5人に1人が認知症になるといわれています。
上野病院では、シニアのための“いきいき教室”の第5回生を募集します。

定員 80名
参加費 無料

■回数	■開催日	■教科内容	■講師
第1回	6月22日(土) 13:30~15:00	開校式/「認知症サポーター養成講座」 「地域における見守りについて」 「いきいき教室 はじまり・はじまり」	伊賀市地域包括支援センター 伊賀市社会福祉協議会 上野病院
第2回	7月27日(土) 13:30~15:00	認知症についてどれくらい知っていますか？ ～認知症の理解と対応～	平尾 文雄(上野病院院長)
第3回	8月24日(土) 13:30~15:00	認知症と生活習慣病について ～病気とうまく付き合っていくために～	山口 知代(精神科専門看護師)
第4回	9月28日(土) 13:30~15:00	終活について ～避けては通れない死について考えてみる～	岡田 敦(認定臨床心理師)
第5回	10月19日(土) 13:30~15:00	脳と身体を使ってすっきり ～どこでも出来る簡単トレーニング法～	安井 義博(理学療法士)
第6回	11月16日(土) 13:30~15:00	仮 睡眠について ～“寝る”という事を改めて考えてみる～	藤井 勇佑(精神科医師)
第7回	12月21日(土) 13:30~15:00	食べ物と認知症との関係 ～食生活で気を付けること～ / 修了式	竹内 恵美子(管理栄養士 ・精神科認定栄養士)

- 会場 / 上野病院クリニック棟 2F (伊賀市四十九町2888) ※無料駐車場有
- 対象者 / 伊賀市内にお住まいの65歳以上の方
- 修了 / 5回以上の参加で、修了証書を発行します。
- 申込期間 / 4月16日(火)～6月15日(土) ※申込期間内でも、定員に達した時点で締め切ります。
お電話またはFAXにて、住所・氏名・電話番号をお知らせください。
- その他 / 体を動かしやすい服装でお越しください。(2回目と6回目は座学)
筆記用具および、1回目に配布する「いきいき教室」のファイルを毎回ご持参ください。



お申し込み先・連絡先 一般財団法人 信貴山病院分院 上野病院 担当：奥谷：乾
☎0595-21-5010 / FAX 0595-21-5100



■主催 / 一般財団法人 信貴山病院分院 上野病院 ■共催 / 伊賀市地域包括支援センター・伊賀市社会福祉協議会

認知症・介護予防
教室のご案内

音楽療法を通して楽しく健康づくり
をしませんか？はじめての方も大歓迎！
(参加費無料・申込不要)

《上野会場》

【日時】5月22日(水) 10時～11時

【場所】ハイトップ伊賀5階

※教室に関するお問い合わせは、各地域センターまでお願いします。

第6回健康安全
運動講座のご案内

三重ダイハツでは、自由に外出ができる生活をいつまでも続けられるよう安心してクルマにお乗りいただくための専門講師による「運転能力の維持・向上に役立つ運動指導」「サポカー体験」「お住まいの地域での運転で気をつけて欲しい事」を開催いたします。この機会に是非、ご自身の運転を振り返ってみたいかがでしょうか？

【日時】5月23日(木) 13時～15時30分
【場所】三重ダイハツ販売(株)伊賀上野店
(伊賀市印代335-6)

【対象年齢】60歳以上【参加費】無料
【定員】20名(定員になり次第締め切り)
【申込・問い合わせ先】

伊賀市社協本部 ☎21-5866

●お電話にてお申し込みの際、運転講座の申込の旨、お名前、ご住所、お電話番号、年齢をお伝えください。

●当日、簡単な運動指導もごございますので、動きやすい服装でのご参加をオススメします。

数字で見る伊賀市の福祉

平成31年2月28日現在(前月比)

伊賀市の人口	92,046人(-79人)	※集計処理の関係で前々月末日時点の数値です。 ※伊賀市の人口は外国人住民を含めた数です。 ※65歳以上の高齢者及び高齢化率には外国人住民も含まれています。 ※介護保険認定者数は要支援・要介護認定者数です。 ※ボランティア活動保険加入者数は平成30年4月1日以降の加入者延人数です。 ※ホームページアクセス数は、カウンタ数値ではなく1ヶ月間の訪問者実数を解析し掲載しています。
65歳以上の高齢者	29,662人(+19人)	
高齢化率	32.2%(±0.0%)	
介護保険認定者数(施設・在宅)	6,127人(+1人)	
ボランティア活動保険加入者数	2,764人(+1人)	
ホームページアクセス数	7,541(-1,005件)	

あなたのまちのふれあい・いきいきサロン(147)

ハッピーちるどれん



メンバー数/親子15組
 開催場所/三重県上野森林公園他
 開催頻度/月1回 土曜日

ハッピーちるどれんでは、乳幼児から学童期の子どもたちが五感を使って自由に考え、動ける活動を心がけています。

今年度は、書道家の方や建具屋さん、木工教室講師の方などと一緒に、森林公園と共催でものづくりにも取り組みました。専門的な技術を持つ人の思いが伝わり、子どもの自由な発想がそれぞれに広がって、予想以上のものが出来上がる体験が出来ました。仲間がいることで連帯感も生まれます。自然を感じながら、親子でひとつのことに集中して一生懸命に作業をした時間は、人生の宝物になると思っています。また、自然の中で鳥の声や風の音に触れながら過ごすことで、「命は人間だけじゃないこと」「暑い時、寒い時の過ごし方」などを季節を感じながら五感で学びます。その体験から、ゆくゆくは環境のことにも目を向ける子に育ってくればという思いも持っています。

今後も、色んな活動を取り入れて、親子で動きやすい形で続けていきたいです。子どもたち一人ひとりの未来のために、丁寧に活動していきたいと思っています。発達に課題を感じているお子さんの参加も、お気軽にご相談ください。

●活動を始めたきっかけ

在職中から「何か地域の中で役に立ちたい!」と、福祉の仕事をしたと思っていました。62歳の時に、大学の福祉学部に入學し、地域福祉や高齢者福祉、児童福祉等について2年間学びを深め、大学卒業後、自治会長をしている時に、民生委員児童委員になりました。

●活動内容

民生委員活動を始めて12年目になります。地域の中でみなさんが、安心安全に暮らすためのお手伝いをしています。民生委員としては①見守り活動②相談相手③つなぎ役として、日々努力をしています。また、会長として行政等の関係機関への提言や、地域のネットワークづくりを担っています。

●今後の抱負

民生委員同士のつながりが、まだまだ弱いように感じます。今年度は民生委員児童委員協議会単位での情報交換や交流が出来るようにすすめていきたいと思っています。また、住民自治協議会や自治会等の地域の関係団体との協働、連携をさらに強化し、地域福祉課題の解決をめざしていきたいです。



まつい けんじ
松井 謙二さん (77歳)
 上野在住
 伊賀市民生委員児童委員
 連合会 会長

我らふくししんじやー

No.155

編集後記

4月に入り平成31年度がスタートしましたが、平成年度からはまもなく幕を閉じ、5月からは新元号「令和」がスタートします。伊賀市社協が5月1日より令和元年5月号を発行いたしますので、令和時代におきまして、引き続きご愛読いただきますようお願いいたします。

編集・発行 社会福祉法人 **伊賀市社会福祉協議会**

本部(上野)	〒518-0869 伊賀市上野中町2976番地1 上野ふれあいプラザ3階 TEL:0595(21)5866/FAX:0595(26)0002 E-mail:info@hanzou.or.jp(本部) ueno@hanzou.or.jp(事務局)	伊賀市馬場	〒518-1313 伊賀市馬場1128番地の1 阿山保健福祉センター TEL:0595(43)1854/FAX:0595(43)1577 E-mail:ayama@hanzou.or.jp
いがまろ	〒519-1413 伊賀市愛田513番地 いがまち保健福祉センター[愛の里] TEL:0595(45)1012/FAX:0595(45)1050 E-mail:iga@hanzou.or.jp	大山田	〒518-1422 伊賀市平田656番地の1 大山田福祉センター TEL:0595(47)0780/FAX:0595(46)1165 E-mail:ooyamada@hanzou.or.jp
島ヶ原	〒519-1711 伊賀市島ヶ原4743番地 島ヶ原福祉センター[清流] TEL:0595(59)3132/FAX:0595(59)3145 E-mail:shimagahara@hanzou.or.jp	青山	〒518-0226 伊賀市阿保1988の1番地 青山福祉センター TEL:0595(52)2999/FAX:0595(52)3555 E-mail:aoyama@hanzou.or.jp

●伊賀市社会福祉協議会ホームページ● <http://www.hanzou.or.jp/>